

実証対象技術の概要（ヒートアイランド対策技術分野）

実証対象技術名 環境技術開発者名	実証対象技術の概要
顕熱抑制装置（ドレン水活用方式） (株)ハンシン	この技術は、冷房でタレ流すドレン冷水の潜熱を空調機凝縮器に活用するものです。室内機で発生するドレン冷水を室外機に取り付けた機器に回収し、一定量の水が溜まる度に一気に放流し、フィン表面を濡らして、冷却を繰り返します。また、過酷な冷房運転状況になるほど多くの水が発生して、自然に負荷に応じた効果を発揮し、同時にフィンの洗浄機能も期待できます。冷房で発生する水を利用するためランニングコストは不要です。
顕熱抑制装置（噴霧散水冷却方式） (株)ハンシン	この技術は、外気で冷却機能する熱交面の手前で噴霧散水幕を作り、吸引外気は吹き上がる散水の勢いで一次冷却、幕を通過することで二次冷却、さらに吹き上がった水滴はフィン上部を濡らして落下し三次冷却と貴重な水を効率よく活用します。また、ノズルはセルフクリーニング機構を持たせた構造で、スケール等の異物を自動的に排出して、孔づまりの心配は少なく、広角扇状の噴霧散水により熱交を広く包含冷却が可能です。
水噴霧による顕熱抑制技術 オーケー器材(株)	この技術は、空冷室外機に直接水を噴霧し、高温のフィン表面と接触させることによって、効率的に水を蒸発させ、その時の潜熱を利用して冷却効果を高め、室外機から発生する顕熱を抑制する後付での設置が可能な技術です。
間接散水冷却装置 (株)不二工機	この技術は、冷凍・冷蔵・冷房（空調）機器の室外機に取りつけたマットに散水し、通過した冷却空気をコンデンサに送る間接冷却装置です。高圧カット防止、夏場の冷却能力UP、ピークカットによる基本電力料金の削減が図れます。既存、新設を問わず簡単に取付けることができ、間接冷却方式の為、フィンの腐食、スケールの付着がなく、コンデンサへのゴミ等付着防止効果（フィルター効果）もあります。

実証対象技術の概要については、環境技術開発者からの情報を記載しています。